

お名前は矢野光夫さん、山伏名は「光源」と名付けられました。出羽三山山伏修行二十度位の満願を達成した方です。私にも人生の師と思っている人は何人かおりますが、一一心の有り様の問題を考える時、ふと浮かぶのが尊敬する一人の矢野光夫さんです。図-1のとおりです。とにかく、好奇心旺盛、日々自己研鑽の努力のお方です。



図-1

矢野さんは、山形県の内陸部（山形）と日本海側・庄内地方（鶴岡）とを結ぶ「旧六十里越街道」の中興の祖でもあります。矢野さんとはこの同街道ウォーク・イベントを通じて知り合いました。もちろん「ほら貝」を吹きます。難行苦行を自慢するような言葉・口調は一言も聞いたことはありません、これ以前から存じ上げておりましたが、このような修行についてはこの新聞報道を見て初めて知りました。矢野さんの話を聞いていると私のスルーハイクで湧き上がる信条・心情とどこか交錯する処を感じています。しかし、大きく違う所があります。私は気ままな放縦の旅なのに対して、矢野さんは、次のような制約の中で、自分を見詰めるという明確な精神修養の目的を持って自ら飛び込んだのです。毎年過酷な7日間、これを二十度達成まで続けたのです。

- ・¹「秋の峰入り」という出羽三山公式の山伏修行である。
- ・²厳格な儀式と所作を伴う。
- ・³荒行（堂籠りの南蛮燻し、長時間の勤行、山駆け他）を実践する。
- ・⁴集団儀式であり個人の我が儘勝手は許されない。
- ・⁵時間工程（スケジュール）が決められている。

ところで、その「秋の峰入り」修行には、同社最高位の宮司も権禰宜も同行するとのこと。

今年の秋の峰入りで二十度位を達成した矢野光夫さん（鶴岡市・出羽三山神社）



山形新聞
2015(H27)/9/12(土)

出羽三山修行「秋の峰入り」

二十度位 達成

2015(H27)年9月12日(土)

天童の矢野さん(73) 荒行耐え

「今後は真意を追究」

鶴岡市の羽黒山で行われている出羽三山神社の山伏修行「秋の峰入り」を続けてきた天童市東久野本2丁目の矢野光夫さん(73)が今年の修行で参加20回となり、「二十度位(にじゅうどい)」の満願を達成した。山々を巡る山駆け、煙に耐える「南蛮いぶし」などの荒行があり、体力的にもぎりぎりの年齢だった。矢野さんは「これからは、全身で覚えた修行の真意を追究したい」との目標を立てている。

矢野さんは県職員時代のつた。角膜移植手術を受け1995年、「出羽三山」の歴史を体感し、精神文化の根底にあるものを探求したかったと修行をスタート。初参加の「初度位」から毎年回を重ね、10回目から二十度位を意識するようになった。矢野さんは、出羽の古道を調査する「六十里越街道を記録する会」の代表として山歩きには自信があったが、唐辛子などをいぶした煙に耐える「南蛮いぶし」だけは「何度やっても本当につらかった」と振り返り、「家族の理解と支えで続けられた」と話す。

秋の峰入りとは8月下旬から1週間、山頂付近の吹越籠堂(ふきこしこもりどう)に宿泊まりしながら、荒行を続ける。矢野さんは20回の参加を通し、7日間の修行スケジュールや内容を克明に記録し、毎回の食事のメニューから摂取カロリーも計算。用いられる専門用語の語源、意味などを調べ、資料にまとめた。その結果、空腹に耐え、眠気に打ち勝ち、身体を酷使する修行について「一度死んだ修行者が母の胎内で生命を受け、徐々に成長して出生するという生まれ変わりの体系で構成されている」との分析に至った。「これまでは体を使っているにしろ文化を理解してきた。これからは、修行の一つ一つの真意について頭を使って追究したい」。心身を鍛える矢野さんの修行はまだまだ続く。

図-2

矢野さんに接していると、三現主義——“¹現場・²現物・³現実”の三つの“現”を重じ、机上の知識偏重ではなく、実際に現場で現物を観察して、現実を見極めた上で、しかし今に墮して拘泥・執着することなく、もの・ことを理想へ引き上げて行くという考え方——が身に染みているお方と感じています。空理空論を振り回しません。しゃべり方はとても温厚です。私のようにガサツな一面は皆無であります。今も修験の道に係る探求心旺盛であられます。矢野さんから少しでも学んで有意義な人生にしたいと念じています。

この写真のような山伏修行の正装姿をこの肉眼でお目にかかり、記念写真を撮りたいと念願しています。矢野光夫さんの山伏修行 20 度位満願達成に祝意を表して、私が贈った「秋の峰入り満願賛歌」を記載します。矢野さんの心を想像しつつ私のバーチャルリアリティの世界を溶かし込んで——私もこのような山伏になれたらいいな・・・というのが夢と願望を込めて創作した 7・5 調の和讃と短歌の組み合わせです。矢野さんの思いとはずれているかもしれませんが！ 私の勝手想像です。

一、平成七年の初峰に 決意を固め飛び込んだ

南蛮いぶし何度でも 頑張り抜いた小柄の身

神仏と虚空の域で対峙した 生まれ変わりの出羽の修行

二、蜂子(の)皇子の修行の地 阿久谷に入りしぶき浴び

最奥の秘所三鈷沢 抖擻を重ねよじ昇る

これまでの非力な我と神仏 自然の力で握り巻き付く

三、松尾芭蕉も駆け抜けた 中興の祖師天宥も

私の如き素人も 全てを包む大宇宙

私を扱ってくれた古里は 出羽三山は神奈備の杜

四、出羽三山の秋の峰 古修験道の二十度位

満願成就感無量 皆に感謝ありがとう

無我夢中山川駈けて堂籠り 胎内抜けて永遠の命が

=====

私が共鳴する人間は、「探求心・好奇心」の旺盛な人です。そのような性格の人は発展性がある、自由自在、融通無碍の世界観を醸し出してくれます。単なる時節柄の社会問題評論家に拘泥しないのです。

今の自分に拘泥し、「俺の信念はこうだ」と凝り固まった性格の人とは付き合わなくてもよい。そういう人は楽しくない、おもしろくないのです。

実は密かな希望があって、何時か、矢野さんの山伏正装姿と一緒に写真を撮りたいと思っています。

(end)